

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載  
【部門区分】第7部門第1区分  
【発行日】令和3年4月30日(2021.4.30)

【公開番号】特開2020-187919(P2020-187919A)  
【公開日】令和2年11月19日(2020.11.19)  
【年通号数】公開・登録公報2020-047  
【出願番号】特願2019-91644(P2019-91644)  
【国際特許分類】

H 0 1 R 13/52 (2006.01)

H 0 1 R 13/6581 (2011.01)

【F I】

H 0 1 R 13/52 3 0 1 H

H 0 1 R 13/52 3 0 1 E

H 0 1 R 13/6581

【手続補正書】

【提出日】令和3年3月19日(2021.3.19)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0013

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0013】

上記態様によれば、外側配置部の外周面に備えられた溝に浸入した液体の少なくとも一部は、溝を伝って鉛直方向の下方に流れた後、被覆部における挿入部側の端面を伝ってコネクタの外部に排出されやすくなる。従って、塩分を含んだ水等の液体がシールド側シール部材に至ることをより抑制できるため、当該液体に起因してシールド側シール部材の経年劣化が促進されることがより抑制される。その結果、塩分を含む液体が接触することに起因したシールド側シール部材のシール性の低下をより抑制できる。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0015

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0015】

上記態様によれば、被覆部における挿入部側の端面とケースとの間から外側配置部の外周面と被覆部の内周面との間に浸入しようとする液体の少なくとも一部は、外側配置部の外周面と被覆部の内周面との間に至る前に被覆部における挿入部側の端面に備えられた溝に浸入できる。当該溝に浸入した液体は、当該溝を伝って鉛直方向の下方に流れた後、被覆部における挿入部側の端面とケースとの間からコネクタの外部に排出されることが可能である。このように、外側配置部の外周面と被覆部の内周面との間に浸入しようとする液体の少なくとも一部は、外側配置部の外周面と被覆部の内周面との間に至る前にコネクタの外部に排出されることができ、従って、塩分を含んだ水等の液体がシールド側シール部材に至ることをより抑制できるため、当該液体に起因してシールド側シール部材の経年劣化が促進されることがより抑制される。その結果、塩分を含む液体が接触することに起因したシールド側シール部材のシール性の低下をより抑制できる。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0042

## 【補正方法】変更

## 【補正の内容】

## 【0042】

第2装着溝46にはシールド側シール部材71が配置されている。本実施形態では、シールド側シール部材71はゴムリングである。シールド側シール部材71は、環状をなす本体部72と、本体部72から突出した複数の位置決め凸部73とを有する。本実施形態では、位置決め凸部73は、本体部72の延びる方向に離れた4箇所本体部72の幅方向の両側に突出している。本体部72と位置決め凸部73とは一体に形成されている。シールド側シール部材71は、本体部72が外側配置部41に外嵌されるように第2装着溝46に収容されている。そして、シールド側シール部材71は、第2装着溝46の底面に液密に密着している。また、シールド側シール部材71は、複数の位置決め凸部73がそれぞれ位置決め凹部48内に配置されることにより、外側配置部41に対する外側配置部41とシールド側シール部材71とが相対回転する方向の位置決めがなされている。

## 【手続補正4】

## 【補正対象書類名】明細書

## 【補正対象項目名】0071

## 【補正方法】変更

## 【補正の内容】

## 【0071】

・外側配置部41の外周面が有する第2浸入抑制溝49の形状は上記実施形態の形状に限らない。第2浸入抑制溝49は、外側配置部41の外周面におけるシールド側シール部材71と挿入部31との間の部分に、外側配置部41の全周にわたって連続的に設けられたものであればよい。例えば、第2浸入抑制溝49は、第2浸入抑制溝49の延びる方向と直交する断面の形状が円弧状、多角形状等、矩形状以外の形状をなすものであってもよい。また、上記実施形態では、第2浸入抑制溝49は、外側配置部41の外周面上に装着凸部47aが設けられることにより外側配置部41の外周面に溝状に形成されている。しかしながら、第2浸入抑制溝49は、外側配置部41の外周面から内側に凹設された溝であってもよい。また、第2浸入抑制溝49は、第2装着溝46より浅くてもよいし、第2装着溝46より深くてもよい。